

江戸時代後期を代表する小林<sup>いっさ</sup>一茶の俳句に、  
「世の中を<sup>なお</sup> ゆり直すらん 日の<sup>はじめ</sup> 始」という一句があります。新年早々に気持ちの区切りを付けたい、良い年になって欲しいと思うのは、今も変わらぬ願いではないでしょうか。昨年は、世界中で多くの災害が起こりました。今年こそは、<sup>はつひ</sup>初日の出の勢いで、安らかな一年であって欲しいものです。

さて、新年の<sup>さん</sup>三が日、<sup>にち</sup>皆さんはどの様なお願いごとをなさったでしょうか。

「家族が幸せでありますように」、「いつまでも健康でありますように」、「試験に合格しますように」、「お金が儲かりますように」などと、<sup>だんだん</sup>と自分中心の願い事が増えていってはいないでしょうか。

お寺では、お正月中、「<sup>だいほんにやえ</sup>大般若会」または「<sup>しゅしょうえ</sup>修正会」とう御祈願の法要が<sup>と</sup>執り行われますが、これはお釈迦さまがおさとりになられた智慧を頂いて、日々の生活に活かされますようにと願う法要です。

お寺で<sup>おまも</sup>御守りや御札をお受けになることが有りましたら、その願い事が叶うよう、お釈迦さまのお示しになられた<sup>よ</sup>み教えを守り、自分の生きる道しるべ、<sup>しるし</sup>拠り所として心の中に持ち続けることが大切です。その約束をしたお<sup>はだみ</sup>印が御守りであり、御札なのです。<sup>ふだしょ</sup>肌身離さず一年間大切にお持ちくださいと札<sup>ら</sup>所などでいわれるゆえんです。

曹洞宗のお寺では、本堂の正面中央に、多くは御本尊様としてお釈迦さまをお祀りしています。それは、<sup>ほっかいじょういん</sup>法界定<sup>いん</sup>印という印を結んだ<sup>ぜんじょう</sup>禅定のお姿で、修行の手本をお示しになっておられます。その前<sup>て</sup>で掌を合わせる時には、同じように心安らかに生きたい、<sup>かな</sup>み教えに適った生き方をしたいという願いを持ちましょう。これを、おさとり<sup>あこが</sup>りに<sup>ほだいしん</sup>憧れる心、菩提心といえます。そして、これからはそうした日送りをして生きてゆきますという<sup>ちか</sup>お誓いを立てて頂きたいものです。

新年にあたり、新たな<sup>すがすが</sup>お誓いを立てて、清々しい気持ちで過ごしてみたいかがで  
しょうか。そして、その<sup>しよしん</sup>初心を忘れることなく、一年間を過ごせたらどんなに素晴らしいことでしょう。